

令和6年度 第1回甲府市社会福祉審議会 健康・保健専門分科会 議事録

開催日時：令和6年12月19日（木） 18時30分～19時30分

場 所：健康支援センター2階 大会議室

出席委員：8人

欠席委員：2人

事務局：保健衛生総室長、地域保健課長、母子保健課長、健康保険課長、精神保健課長、健康政策課長、外一般職員4人

担当課：保健衛生部 健康政策課

傍 聴：なし

次 第：

- 1 開会
- 2 新任委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 会長挨拶
- 5 議事
 - (1) 令和5年度数値目標設定事業評価について
 - (2) 第9次保健計画（令和6年度～11年度）の数値目標について
 - (3) その他
- 6 閉会

会議内容：

- 1 開会
事務局より開会の挨拶を行った。
- 2 新任委員紹介
事務局より新任委員の紹介を行った。
- 3 職員紹介
事務局より職員の紹介を行った。
- 4 会長挨拶
会長より挨拶を行った。
- 5 議事
 - (1) 令和5年度数値目標設定事業評価について
事務局より、「令和5年度数値目標設定事業評価」について説明を行った。

【委員】

資料2「⑬喫煙者の割合」について、年齢ごとの分布が分かれば教えてほしい。最近では若い世代の女性が吸っている印象がある。

【事務局】

毎日吸っていると回答した方は、男性40代が32.7%で一番高く、女性では40代で12.5%、20代以下で6.6%、30代で4.4%となっている。

【委員】

資料2「⑤朝食を欠食する小学生の割合の減少」について、啓発ツールの作成において給食だよりの説明があった。小学校ではお便り類がタブレット端末での配付となっている。市で共通したツールを作成し、電子での配付をしてはどうか。

【事務局】

社会情勢を踏まえ、教育委員会等含め検討させていただく。

【委員】

紙と電子、それぞれにメリット・デメリットがある。電子では確実に保護者の元に届くが、スマートフォン等で見ると画面が小さく、拡大して見る必要がある。紙にすることで、子どもたちが目にする機会ができ、効果があるものもある。養護教諭が小学生に指導しているが、どうしても小学生の朝食は保護者の意識が重要になる。今年度からの保健計画の数値目標には、「朝食を毎日食べる中学生の割合」となっており、中学生に焦点があたり、中学生のほうで自分で考えて行動できるという点では、学校としてできることのメリットはあるように感じるが、朝時間がなく登校してくるなど課題はあるので、学校現場で指導ができるように考えていきたい。

【事務局】

現場の声や、どこをターゲットにするか踏まえて検討させていただく。

【委員】

保護者によっては電子媒体が苦手な方もいる。子どもにまで伝わらないことがあるかもしれない。紙媒体の良さを活かし、併用するなどの工夫が必要。

【委員】

女性の飲酒について、実績値が年々あがっているという認識だが、今後も継続して飲酒のリスクについて周知していくということだが、リスクを高める量の飲酒をしている女性が増えている原因などは分析できているのか。

【事務局】

原因などの分析は出来ていない。今後取組について検討していく。

【委員】

コロナなど様々な影響があると思うが、原因の分析を進めていくなかで具体的な対策をする必要がある。

【委員】

子どもが朝食を食べるかどうかは、保護者の朝食摂取状況が影響しているように感じる。データ上ではわからないが、保護者に対しても朝食を食べることの啓発をしていく必要がある。

【事務局】

食育基本計画において、年代別の食事摂取状況のアンケートを取っており、子どもの食生活は保護者に影響される部分が大いと感じている。そのようなところも踏まえ、普及啓発に取り組んでいく。

(2) 第9次保健計画（令和6年度～11年度）の数値目標について

事務局より、第9次保健計画（令和6年度～11年度）の数値目標について説明を行った。

【委員】

歯科の施策について、甲府市は積極的に取り組んでいる。う歯に関しては、平成元年に8020運動を始め、乳

歯のう歯が8割の時代を考えると、甲府市の3歳児のう歯の割合が1割くらいでは十分と感じるほどである。地域医療の施策として、目標設定をして、それをクリアするというような話ではなく、大局を見て考えていただきたい。喫煙について、喫煙しているのは中高年、若い世代の喫煙が増えているという話があったが、喫煙者の生活習慣を変えるのは大変なことで、目標値を設定して、中高年にタバコをやめるように周知することで行動変容するとは考えづらい。目標を全部A判定にしようとするのではなく、濃淡をつける。特定健診について、10年以上前から同じような数値で同じようなことを言ってきた。特定保健指導について、食と運動も問題だと思うが、中高年はもう知っていると言われてしまう。小さい頃から指導をしていくことが基本。大きい目標として食の問題が重要だと考えている。そのような活動のどこに力を入れていくか、基本的には子どもだと思うが、う歯に関しては、ブラッシングやフッ素などで解決に向かっている。そこに指標を打ち出すことはありがたいことだが、全体を考えて力を入れるべきところがある。歯科の問題で現在重要なのはう歯より歯周疾患である。甲府市も昨年度から歯周疾患の受診勧奨をしている。

【事務局】

歯周疾患検診について甲府市は他の市町村に比べ受診対象年齢を広くしているが結果として受診者数がとても少ないというのが現状と課題である。毎年700人から800人台の受診者数ということで計画を策定するにあたり予防という視点でも健康づくりは重要な施策であるといろいろと協議をしたうえで独立した施策の一つとして挙げた。受診率向上に向けての取り組みでは、昨年度は厚生労働省のモデル事業等に参画し今までの約3倍受診者数が増えた実績がある。それをどう維持していくか、さらに伸ばしていくのが大切な視点になる。維持できるような取り組みを先生方に助言をいただきながら進めていきたい。

【委員】

甲府市は他市町村より進んでいると評価している。19歳から歯科検診を無料で受診できる体制をとって、さらに受診勧奨をしている自治体は全国をみても少ない。自信をもって継続してほしい。

【委員】

骨粗鬆症の受診率について、厚生労働省の最近の調査で65歳以上の方で要介護状態になった主な原因として骨折、運動機能の障害があり、骨粗鬆症が直接関わってきている。骨粗鬆症は女性だけでなく男性もなる可能性がある。生活習慣病から骨粗鬆症になることもあるのでヘルスプロモーションを色々な方にアプローチし、若い頃から知識を得ることが必要と考える。

【事務局】

甲府市の骨粗鬆症検診については20歳以上の男性・女性含め受診できる体制となっている。目標値を立てる際には国の基準と合わせているが受診率が低いことが課題である。甲府市独自の女性に向けてのなでしこ検診等と組み合わせで普及啓発し、受診率を上げていきたいと考えている。

【委員】

フレイルの認知度について。39.5%というのは高いと思っているが、事務局側の見解を聞きたい。甲府市はフレイル予防の3本の柱を4本の柱に変えて市民に伝えているのはとても良いことだと思う。「おいしく楽しく元気塾」や「健康づくり同窓会」など興味深い事業名をつけていることは評価に値する。

【事務局】

フレイルの認知度については今回の策定時に初めてとった項目である。メタボやCOPDの認知度から考えるとその間くらいではないかと思う。施策として取り組みや普及啓発進め、認知度を高めていきたい。

(3) その他

事務局より、委員の任期満了に伴う来年度以降の委員の推薦依頼、公募委員の募集、令和7年度のスケジュールについて説明した。